

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「石巻市協働教育推進事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら、協働し、社会の中で、たくましく生きる子どもたちを地域全体で育む協働教育を推進することを目指している。この事業は、平成28年度から、原則、同一校に3年間継続して委託し、地域における協働教育の土台づくりに取り組み、各学校の特色ある実践により、児童・生徒の学習活動の質を高めることにつなげている。

内容

(1) 協働教育推進事業の実施校・・・市内小・中学校10校へ委託

須江小、北村小、桃生小、住吉中、湊中、石巻小、住吉小、広瀬小、鮎川小、雄勝中

(2) 協働教育支援会議・・・年2回実施(協働教育事業全体の計画と実施報告及び評価・検証)

(3) 協働教育各種研修会・連絡会議・・・石巻市協働教育コーディネーター研修会を1回実施(県と共催)

(4) 協働教育コーディネーター委嘱・・・市内全小学校へ1名ずつ配置(32名)

(5) 学校支援地域コーディネーター委嘱・・・市内小・中学校区39校へ配置(35名)*複数校兼務者含む



北村小「手作り弁当作り」*食育



石巻小「防災学習」



住吉小「キャップハンディ体験」

ポイント

- (1) 協働教育推進事業は、意向調査により実施校を選考し、事業の実施を委託する。
- (2) 協働教育支援会議は、石巻市の協働教育事業全体の成果と課題について話し合う場。
- (3) 協働教育各種研修会・連絡会議は、地域連携担当教員、地域コーディネーター等を対象に実施する。
- (4) 協働教育コーディネーターは、市内すべての小学校に1名ずつ、学校側の窓口として委嘱する。
- (5) 学校支援地域コーディネーターは、学校と地域をつなぐ役割を担う、地域側の窓口として委嘱する。

成果

・各地域コーディネーターは、学校の依頼に応じ、学習支援や学区内パトロール、農業体験補助や伝統芸能の伝承に向けての活動に精力的に取り組んだ。また、小中連携のために尽力する姿も見られた。

・協働教育支援会議で各事業の成果と課題を参加者全員で共有し、意見交換することにより、次年度の事業計画の参考にすることができた。

| 学校支援地域 コーディネーター | R2 | R3 | R4 | R5 |
|--------------------|----|----|----|----|
| 人数 | 17 | 16 | 25 | 35 |

今後の方向性

- ・協働教育推進事業は、実施校終了に伴い、学校運営協議会と地域学校協働活動との一体的推進を図り、地域連携担当教諭とコーディネーターとの連絡・調整機能を高める。
- ・学校支援地域コーディネーターの委嘱については、コミュニティ・スクールの導入状況を踏まえた小・中学校区ごとの配置を検討する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「気仙沼市協働教育プラットフォーム事業」(宮城県気仙沼市)

取組の概要や経緯

公民館を中心とした地域の社会教育関係団体と連携し、学校・家庭・地域の協働による学びを通じた地域コミュニティづくりと、地域全体で子供を育てる体制づくりに資するために「**気仙沼市協働教育プラットフォーム事業**(地域学校協働活動)」として実施している。



内容

子供の学習支援を核として、学校・家庭・地域(行政, 社会教育関係団体, NPO, 企業等)の協働により、**深い学び**, **幅広い世代との交流**, **社会教育資源の活用を活発に行うこと**で、**地域のコミュニティづくりを推進**する。その調整を**地域学校協働活動推進員**, **公民館担当職員**, **地域連携担当教員が中心**となっていく。

- ①学校の教育活動への地域住民の参画による支援
- ②地域活動への子供の参加・異世代との交流
- ③家庭教育支援事業



ポイント

- ①地域学校協働活動推進員による事業の立案や学校、関係団体との連絡・調整
- ②地域活動への参加による異世代での交流活動の推進
- ③シリーズ化したプログラムの実施

成果

- ・コロナ禍前よりも多い事業数を実施できた。
- ・特に学校支援活動では、多くの講師やボランティアの協力を得て、事業実施したことで、**子供の学びや体験活動が充実した**。
- ・社会教育関係団体を中心とした多くの地域住民が参加したことで**地域で子供を育てる体制づくりにつながる**とともに、**地域住民が地域の子供と関わることで地域のコミュニティが活性化**した。

| | 事業数(回) | 参加者数(人) |
|------|--------|---------|
| 学校支援 | 122 | 5,217 |
| 地域支援 | 26 | 741 |
| 家庭支援 | 23 | 707 |
| 合計 | 171 | 6,665 |

今後の方向性

- ・各公民館や地域の特性を生かしつつ、学校教育支援・地域活動支援・家庭教育支援の3つの事業をバランスよく取り入れることで、子供の学びや体験活動の場を保障する。
- ・学校運営協議会との連携を推進し、地域学校協働活動推進員、公民館担当職員、地域連携担当教員を核とした協働体制を構築する。
- ・地域学校協働活動推進員を核として、地域団体等との連携を深め、ボランティアを確保するとともに、学校支援事業での協力人数の増加を目指す。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「できるひとが できるときに できることを」「子どもも大人も共に学び、育ち合う」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

- ・令和2年7月に地域学校協働本部を立ち上げ、協働本部を中心に支援ボランティア・支援ボランティア団体と学校との連携を深め、スムーズな教育支援が実施できるよう努めている。
- ・アフターコロナや教職員の働き方改革の進行する現状を踏まえ、児童生徒にとってより良い教育活動が推進、展開されるよう各種事業に取り組んでいる。



内容

- ・登下校の安全指導、「蔵王登山・スキー」等の自然体験活動、「団七踊り」「神明神楽」等の伝統文化伝承活動、米作り等の農業体験活動、中学生職場体験活動、キャリア教育事業、読み聞かせ活動、ベルマーク整理活動、防災教育活動等、多岐にわたって支援活動が行われている。
- ・蔵王縦走登山研修、ボランティア講演・研修会、情報交流活動を実施している。
- ・ボランティアだより「清流」を毎月発行配布し、メール配信も行っている。



ポイント

- ・市内小中学校・幼稚園に地域連携担当教員を配置し、ボランティアと学校との関係性を深めることや、ボランティア活動に対する市民の理解を深めるための情報の発信と収集に重点を置いている。
- ・「市内ボランティア・講師データベース」を充実し、各学校からの支援要請にスムーズ応えられる体制づくりに努めている。



成果

- ・自然体験、農業体験、伝統文化継承体験など、教室や家庭では体験できない体験活動の支援を行うことで、児童生徒が地域を学び、理解し、誇りや愛着をもつことができています。
- ・体験活動中の安全確保、教職員の負担軽減に寄与しています。
- ・地域が学校に、学校が地域に目を向ける大切な機会となっている。

今後の方向性

- ・第六次白石市総合計画で掲げる「シビックプライド～まちへの誇りと愛着～」の具現化に継続的に取り組む。
- ・学校教育の現状を踏まえ、地域住民と教育課題の共有を図りながら、地域の教育資源の有効活用に取り組む。
- ・学校と地域公民館との更なる連携の強化を図る。
- ・児童生徒が、より興味関心や主体性を持って取り組める活動の場を広げていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「学校を核として」地域・学校が連携・協働する教育活動 (宮城県 名取市)

取組の概要や経緯

子供を取り巻く問題が複雑化・多様化している背景を踏まえ、地域と学校が子供の成長を支えるという同じ目的を持って教育課題に取り組むことを目指してきた。その仕組みとして、**小・中・義務教育学校区毎に地域学校協働本部を設置し、地域の实情に合わせた活動が持続的に継続的に実施**できるようにしている。



内容

令和5年度は、**市内全小・中・義務教育学校区で事業を展開**した。1つの学校区では**公民館がコーディネート機能**を担い、それ以外の学校区では市が委嘱した33名の**地域住民をコーディネーターが地域の实情に合った活動**を行っている。登下校の見守り・読み聞かせ・ミシン学習補助などの既存の支援に加え、教育課程の中に地域を知る学習を位置づける学校が増え、地域と学校を繋ぐ役割をコーディネーターが行っている。また、地域団体と連携した農業体験や公民館行事に児童生徒が参加するなど、地域活動も行われるようになってきた。中学校では、キャリア教育を行う際の講師の選定や連絡調整等、運営の一部を協働本部が担うことで教員の負担減にもつながっている。

ポイント

- ① **協働本部と市が委託契約を結び**、市は活動に係る経費を委託料として支払う。
- ② 地域コーディネーター、教員、公民館職員を**一堂に会した研修会を実施**。
- ③ 全小学校区にある公民館が、協働本部・活動の**連携・推進に寄与**。



成果

- ・多くの方に見守られることで、子供たちの学びや体験活動が充実するとともに、安全の確保につながっている。
- ・学校支援に地域住民が参加すること、地域活動に子供が参加するによって地域の活性化につながるとともに、保護者や地域住民の学校に対する理解が深まっている。
- ・学校が学習の成果を発揮する場となること、子供たちと関わることで、ボランティアのやりがいにつながっている。

今後の方向性

- ・公民館と協働本部・地域コーディネーターが連携することで、コーディネート機能の強化・多様で継続的な活動の実施を図り、名取市らしい体制で取り組む。
- ・持続可能な本部運営ができるよう、役員やコーディネーターの育成に努める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域学校協働活動の取組事例」(宮城県角田市)

取組の概要や経緯

「第2期角田市教育振興基本計画」の中で目指す「基本目標3」として、「学校・家庭・地域の連携の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくる」とし、「地域学校協働活動」を推進していることとしている。

内容

- 角田市地域学校協働本部を設置し事業計画、また協働活動の検証及び評価を実施する。
- 「角田市地域学校協働活動ネットワーク会議」の開催
- 「角田市小・中学校地域学校協働活動の紹介」事例集作成
- 地域の教育力を活用した学校教育活動を充実させるために
 - ①教育委員会「学校支援ボランティア」の募集
各学校のボランティア派遣要請を受けてボランティアを学校に派遣できるように学校支援ボランティアの募集を実施。
 - ②社会見学・職場体験・職業人講話を受入れ可能な事業所リストの作成
市商工会、市商工観光課、市内の企業などの協力を得て受け入れ先を確保するため協力依頼の実施。

ポイント

- ①子どもを地域全体で育むために、地域と学校をつなぐ仕組みをつくる。
- ②協働による教育活動を通じて、子どもたちのコミュニケーション能力の向上や地域への理解・関心を深め地域を担う人材を育成するとともに、地域住民の生きがいづくりを推進し、地域の活性化を図る。

成果

- 「角田市地域学校協働活動ネットワーク会議」を昨年度に引き続き開催し、協働活動の振り返り及び次年度の推進について情報共有が行われた。
- 「学校支援ボランティア」では地域の教育力を生かした学校教育のさらなる充実を図り、地域に開かれた学校づくりを推進することができた。



角田中学校「職業人講話」



北郷小学校「給食指導補助」



「地域学校協働活動ネットワーク会議」

今後の方向性

- 地域学校協働活動ネットワーク会議・研修会を引き続き実施する。
- 学校支援ボランティアを随時、学校に派遣する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

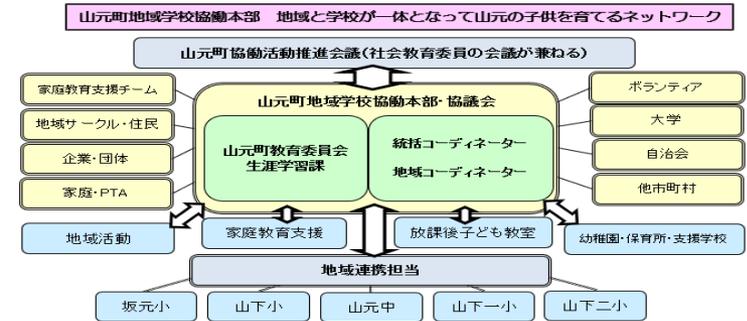
「山元町地域学校協働活動推進事業」(宮城県 山元町)

取組の概要や経緯

「**地域と学校が一体となって山元の子供を育てるネットワーク**」をテーマとして、地域学校協働活動を推進している。

平成30年4月、山元町地域学校協働本部設置要綱、山元町地域学校協働活動コーディネーター設置要綱を施行し、**山元町地域学校協働本部**を設立した。

統括コーディネーター1名、地域コーディネーター3名、生涯学習課が協力・連携しながら事業を推進し、子供たちの育成と地域づくりを目指している。



内容

- **地域学校協働本部の整備** ⇒ 山元町協働教育の円滑な推進を図るために、「地域学校協働本部設置要綱」に基づいた協働本部を設置し、これまでの推進組織を基盤としながら、さらなるネットワークの構築を進める。
- **学校支援活動** ⇒ 学校の学習目標を共有しながら、地域と学校を結び目標達成への活動と組織づくりにより、地域人材探しと活用、学校支援活動の充実を進める。
- **地域活動** ⇒ 世代間交流、障害者の生涯学習の推進、次世代リーダー養成、地域教育資源の活用など、あらゆる人が交流し、学び合いながら、豊かな心、社会性、自主自律、自尊感情を育むとともに、地域の担い手の育成や地域づくりを進める。



学校支援活動「箏の授業ボランティア」

ポイント

- ① コーディネーターが地域の**ボランティアとの連絡を密にする**。
- ② こどもセンター、教育総務課等、**他課室と連携し**情報共有することで事業の推進に役立てる。
- ③ **生涯学習を通じた人材育成システム**を築くことで、継続した人材育成と確保に努める。

成果

- **学校支援活動** ⇒ 学校の担当が変わっても、地域学校協働本部が組織されていることで、人材探しや活動計画の相談ができる点で**学校の安心感**につながっている。また、支援に関わる方にとっての生きがいにもつながっている。
- **地域活動** ⇒ 地域の様々な団体支援に積極的に関わることにより、**地域住民のコミュニティ形成**の場、**ジュニア・リーダーの活躍による育成**の場となっている。

今後の方向性

- 地域学校協働本部や取り巻く環境の整備により、**学校と地域の双方向での学び**を進めるとともに、**家庭・地域・学校の教育力向上の促進**を図る。
- 学校配置の地域連携担当教員と協働本部の協議及び連携の場を設け、**円滑な連携・協働体制**を構築する。
- **学校運営協議会との連携**を図り、地域学校協働活動を**一体的に進めていく**。
- 地域活動では、教育振興基本計画の下、**地域の人々が主体的に参加**でき、**充足感のある事業**の在り方を検討し、実施していく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「色麻町地域学校協働活動推進事業【学校支援事業】【地域活動】」(宮城県色麻町)

取組の概要や経緯

平成17年度から継続している【学校支援】【地域活動支援】【家庭教育支援】の活動を、平成23年度より「協働教育プラットフォーム事業」として実施してきた。

平成29年度より、「地域学校協働活動」として、学校や地域、関係者の連携・協働を強化し、一体的な活動を推進できる体制づくりを目指した。

内容

【学校支援】【地域活動】【家庭教育支援】の各活動分野のコーディネーターと「地域学校協働本部」の企画・調整のもと、各種事業を実施した。

【学校支援】: 米づくり・エゴマ栽培・野菜栽培指導、部活動指導、校外学習随行 など

【地域活動】: こどものまち2023(体験活動)

※中止となった事業... サマーキャンプ(野外活動)、こどものまち校外学習2023(野外活動)



ポイント

- ・各分野のコーディネーターを中心に密に連絡・調整を行い、事業の企画運営を行った。
- ・学校と密に連絡を取り、意思の疎通を図った上で学校支援を行った。
- ・町の他地域団体と連携し、事業を進めている。

成果

- ・概ね全ての事業においてコロナ禍前の水準で実施することができた。また、地域活動においてはこれまで開催した中で、一番多くのボランティアの方々に参加協力をいただいた。
- ・コーディネーター及び学校並びに地域住民との連携がさらに強化され意思疎通が図りやすくなった。

今後の方向性

- ・子供たちが参加しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、事業の見直しを図り、より活発に参加できる環境を整えていく。
- ・学校支援等におけるボランティアに参加していただく方々の研修を行い、より事業内容を詳しく知っていただく機会を提供していく。